

平成24年度病害虫発生予報第11号

平成25年2月4日
愛知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	白色疫病	平年並	全域	1月下旬の発生量はやや少ない 2月の降水量はやや多い	－ ＋
	べと病	平年並	全域	1月下旬の発生量は平年並 (発生を確認していない) 2月の降水量はやや多い	± ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	全域	1月下旬の発生量はやや少ない 2月の日照時間はやや少ない	－ ＋
	灰色かび病	平年並	全域	1月下旬の発生量はやや少ない 2月の日照時間はやや少ない	－ ＋
ナス (施設)	すすかび病	やや少ない	全域	1月下旬の発生量は少ない 2月の日照時間はやや少ない	－ ＋
	うどんこ病	平年並	全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	全域	1月下旬の発生量はやや少ない 2月の日照時間はやや少ない	－ ＋
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	1月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間はやや少ない	± ＋
	うどんこ病	やや多い	全域	1月下旬の発生量はやや多い	＋
	灰色かび病	やや多い	全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間はやや少ない	± ＋
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	全域	1月下旬の発生量はやや多い	＋
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間はやや少ない	± ＋
	うどんこ病	平年並	全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	多い	全域	1月下旬の発生量は多い	＋

・防除対策

〔キュウリ（施設）・べと病〕

ランマンフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤などで防除しましょう。多湿になると発生が多くなるため、施設内の換気や送風を積極的に行いましょう。また、草勢を低下させないように、適正な肥培管理に努めましょう。

〔キュウリ（施設）・うどんこ病〕

アフエットフロアブル、サンヨールなどで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

セイビアーフロアブル20、カンタスドライフロアブルなどで防除しましょう。施設内が多湿になると発生が多くなるので、積極的に換気や送風を行いましょう。

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

コテツフロアブル、スタークル/アルバリン顆粒水溶剤などで防除しましょう。本虫は、キュウリ黄化えそ病の原因ウイルス（MYSV）を媒介します。発生量が少なくても、保毒していれば感染を引き起こすので、防除を徹底しましょう。

〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブルなどで防除しましょう。施設内の換気や送風を積極的に行い、多湿にならないように管理しましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

本日発表の「病虫害発生予察注意報第3号」を参照してください。

・留意事項

タマネギ白色疫病は、降雨が続くと短期間でまん延する恐れがあるので注意しましょう。

キャベツ菌核病は、罹病作物上に形成された菌核が次作の伝染源となるので、被害残さを集めて畑の外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病の発生量は平年並ですが、今後気温の上昇にともない、本病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの発生量が増加し、本病の発生量が増えることが懸念されます。タバココナジラミの防除を徹底するとともに、発病株は伝染源になるので適切に処分しましょう。

ナスのミナミキイロアザミウマの発生量は平年並になりましたが、施設内の温度が高く推移すると、急激に増加することがあります。ほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台2月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並の確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

